

中学校国語科実践事例（第1学年）		西之表市立現和中学校 教諭 岡本 真由美	
単元名	言葉の研究室「話し言葉と書き言葉」	本時	発展学習「聞き方について考えよう」(2/2)
目標	実際の対話を通して、相手が話しやすい対話の仕方について考え、どんな聞き方をすることが大切かを理解し、話し手を意識した聞き方ができるようになる。		
過程時間	主な学習活動	指導上の留意点（カウンセリングの視点）【ソーシャルサポート】	
導入（10分）	1 前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を確認し、落ち着いて学習できるようにする。（配慮を要する生徒への声掛け、誠実な教師の態度、落ち着いた学習環境の確保）【情緒的サポート】 自由に発表できる雰囲気づくりに心がける。【情緒的サポート】 アンケートの結果を基に、「聞き方」に着目させ、本時の学習内容に意欲を持たせるようにする。【情報的サポート】 課題を解決するために、実際の体験を通して具体的に考えさせていく。 「対話の進め方」を書いた小黒板を提示し、説明する。【情報的・道具的サポート】 「対話の進め方」について、分かったかどうか確認する。（理解できていない場合は、補足する。）【情報的サポート】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ① 話し手と聞き手の決定 ② 「聞き方1」（話し手をいやな気持ちにさせるような聞き方）での対話 ③ 感想の交換 ④ 「聞き方2」（話し手が気持ちよく話せるような聞き方）での対話 ⑤ 感想の交換 ⑥ 聞き手と話し手が交代して同様に実施 </div>	
	2 アンケート結果をもとに気付いたことを発表する。		
3 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">話し手が話しやすい聞き方について考えよう。</div>			
4 学習の流れと学習の方法を確認する。			
展開（32分）	5 対話の準備として、話す内容を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書かせる。【道具的サポート】 箇条書きにして、できるだけ簡単に書かせる。（書くことを苦手としている生徒への配慮）【情報的サポート】 机間指導（書けない生徒への支援）【情報的サポート】 ペアづくりについては、スムーズに学習が進められるよう個の状況に配慮しながら行う。【情緒的サポート】 机間指導（指示通りにできていない生徒がいた場合は、アドバイスをする。）【情緒的・情報的サポート】 二つのグループに分け、話しやすい雰囲気を作る。 具体的な話し合いの視点を提示する。【情報的・道具的サポート】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <input type="radio"/> どんな聞き方がいやだったか。 <input type="radio"/> いやな聞き方をされ、どんなふうに思ったか。 <input type="radio"/> 聞き手にどうしてもらおうと話しやすかったか。 </div>	
	6 対話の進め方にしがって対話を行う。		
	7 実際の対話を通して感じたことや気付いたことを話し合う。		
終末（8分）	8 話し合ったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 自由に発表させる。（受容・共感的態度）【情緒的サポート】 	
	9 本時の学習を通して気付いたことや感想をまとめ、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 意図的指名を行う。（受容・共感的態度）【情緒的サポート】 	
実践の考察	10 学習の評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価を通して、事前のアンケートの結果と比較させ、よくなった点を確認させる。（配慮を要する生徒への声掛けによる自己肯定感の高揚）【情緒的・情報的サポート】 	
	11 次時の予告をする。		
<p>事前にアンケートを取り、その結果を踏まえて授業を進めたことで、生徒に意欲をもって取り組もうとする姿勢がみられた。また、実際の体験を通して、聞き方が話し手にどのような影響を与えるかを実感できたようである。</p> <p>事前のアンケートと授業後の自己評価を比較すると、「聞くことが好きだ。」という生徒や、「聞き方が少しくまくなった。」と感じている生徒が増加していることが分かった。自分の聞き方はもとより、話し方についても見つめ直す機会となったようである。ただし、自分への気付きはみられたが、友達の話し方についての気付きにまで学習を深めることができなかった。今後、話し方についての授業を同様の流れで実施してみたいと考えている。</p>			